

平成 29 年度 事業 報告 書

2017 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワーク

1 事業の成果

平成 29 年度事業計画に基づき活動を行った。本年も小児がん患者とその家族の支援に重点をおいた。患者家族からニーズの高い、治療のために遠隔地の病院へ通う場合の交通費・宿泊費の支給を行う「交通費補助金制度」は 4 年目を迎え、今年度は 86 家族と昨年の 52 家族を大きく上回り、合計 826 万円の支援を行うことができた。

奨学金制度は、全国の高校 3 年生の小児がん経験者を対象とした新大学生向けの予約型奨学金に重点を移し、これまでの 23 名への支払を行うとともに、来年度の奨学生の選考し、9 名（応募者 26 名）を決定した。なお高校生は新規募集を行わず、従来からの対象者への支給を行った。（19 名）

小児がん患者とその家族を支援する団体が行うキャンプやイベントへの助成については、本年も、7 グループに助成を行った。参加人数は 249 名（うち小児がん経験者 49 名）に及んでいる。

今年度より新たに治療の結果として必要となるニット帽を患者にプレゼントするを行い、79 人にプレゼントした。

また小児がん経験者の就労移行支援の結果、小児がん経験者 2 名が企業就職につながり、橋渡しの役割を果たせた。継続して別の小児がん経験者の、職場見学会への橋渡しも行った。

小児がんの治癒率向上のための研究開発支援として、応募のあったうち 10 のグループに助成を行った。また白血病の治療のための海外留学に助成金を支出した。

小児がん啓発活動としては 4 月の東京のゴールドリボン・ウォーキング、11 月は大阪のゴールドリボンウォーク&ジョグの開催に対して支援を行った。小児がん情報の発信に関しては、インターネット、広報誌、会報等による発信を引き続き行った。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
小児がん支援のためのゴールドリボン普及事業	<p>① 小児がんに関して一般の方の理解を深めるため、本年も 4 月に日比谷公園で行われたゴールドリボン・ウォーキング、11 月に大阪城公園で行われたゴールドリボンウォーク&ジョグの開催に対する支援を行った。</p> <p>② 飲料、食品、物品等についてメーカー、販売会社等との提携により、一般の方への認知を高める活動も継続した。</p>	通年	全国	6 名	一般市民 不特定多数	21,482

小児がんの治癒率向上・小児がん経験者の生活の質向上のための研究開発支援	一般公募により、応募のあった内10の研究者グループに助成を行った。 白血病分野については治療研究のための海外留学費用を助成した。	通年	全国	3名	医師・研究者 研究機関 10団体	20,506
小児がんに関する情報収集並びに情報提供事業	<ul style="list-style-type: none"> ① 広く当法人の活動を知らしめるため、事業報告書、会報を作成し、またホームページ・Facebookを中心に情報配信を継続して実施した。 ② 小児がん経験者限定に配信するコンテンツ「サバイバーネットワーク」の会員登録は、前年の160名から203名と増えた。 ③ NPO法人いのちをバトンする会と共同で中学生向けの小児がんに関する副教材を作成、昨年度よりの集計で110校以上の中学校で授業が行われ、16,800冊以上が配布された。 ④ 公益財団先端医療振興財団の小児がん情報の更新への支援を本年も行った。 	通年	全国	3名	一般市民 不特定多数	3,306
小児がんの患児および家族への支援並びに入院患児のQOL向上	<ul style="list-style-type: none"> ① 奨学金については、全国の小児がん経験者の大学生への奨学金（予約採用型、給付型）については、これまでの23名に加え、新たな選考の結果、9名を追加した。なお東北3県及び熊本の小児がん経験者の高校生への奨学金は新たな募集はせず、従来の19名のみを支給した。 ② 小児がん患児とその家族に遠隔地の病院への治療に行くための費用支援を行った。前年の52家族から86家族と大きく伸展した。 ③ 患者関係団体が実施するキャンプ、イベント等への支援を行った。 ④ 小児がん経験者の自立支援の一つとして小児がん経験者2名を企業の職場見学会への橋渡しを行い、就職に結びつけた。 ⑤ 小児がんの患児に向けて、ニット帽子をプレゼントした。 	通年	全国	6名	小児がん経験者とその家族 437名	24,684